

ISLM理論の概要

- ケインズの一般理論発表後、J.R. ヒックスにより考えられた
- 45度線理論の基本想定を変更
- 総需要と総供給の一致というマクロ経済学のドグマは保持

45度線理論の基本想定の変更

- 企業の投資支出は、資本コスト（金利に依存する：後述）が下がれば増加する可能性大
- さらに予想売上が上昇すれば設備投資を拡大するだろう
- 金利の動向は、金融市場における貨幣需給で決まる

企業の投資支出

- 企業は資本形成（投資）をするための資金を金融市場で調達する
- 直接金融（株・社債の発行）、間接金融（銀行借り入れ）にしても、利子率が低ければ、調達コストが低い
- 投資支出 I は、利子率 i の減少関数として定式化できる（投資関数）

$$I = I(i) \quad I'(i) < 0$$

- 投資関数の理論は後にくわしく解説する

金融市場と貨幣

- 利率は金融市場で定まる
- 金融市場は経済主体間の資金の過不足を調整する
- 金融市場では、さまざまな金融商品（有価証券）が取引される
- 資金不足主体は、金融商品を発行（または発行を委託）するか銀行から融資という形で、資金を調達する
- 資金余剰主体は、金融商品を購入するか、銀行への預金という形で、資金を提供する
- 金融商品の中核を占める貨幣は、銀行（中央銀行 + 市中銀行）の債務として定義される
- 貨幣は、現金通貨と預金通貨に分類される（本質・機能に違いはない）
- 貨幣は、その決済性の高さと、価値の安定性ゆえに、富の保蔵・価値尺度となる

貨幣保有の動機 I

- 経済主体は、自らの富を実物資産と金融資産の形で保有する
- 金融資産の形で保有する場合、複数種類の金融資産に分けて保有する
- 金融資産には、不確実な将来価値変動にさらされる（ハイリスク・ハイリターン）ものもあれば、貨幣のように価値が安定している（ロウリスク・ロウリターン）なものもある
- 経済主体は金融資産の価値変動の危険を回避しようとする
- 貨幣を保有する第一の動機は、ここにある

貨幣保有の動機 II

- 貨幣は、市場での商品の取引の決済で中核的な働きをする
- よって、貨幣を保有しなければ、富を多くもっていても緊急の取引に対応できないかもしれない ⇒ 貨幣はもつとも決済性(流動性)が高い
- よって、市場における財の取引が活発になればなるほど、貨幣への需要は高まる
- 貨幣を保有する第二の動機は、ここにある

貨幣需要の要因

- 利率が低い場合、一般に有価証券の価格は割高になり、貨幣以外の金融資産の需要が低下 \implies 貨幣需要の増加
- 利率が高い場合、一般に有価証券の価格は割安になり、貨幣以外の金融資産の需要が高まる \implies 貨幣需要の減少
- 貨幣の需要は、利率の減少関数である
- 一方、貨幣は財の市場取引額が大きくなると、より多く需要される
- 貨幣の需要は、国民所得の増加関数である
- 貨幣の需要 M^D は、利率 i と国民所得 Y に依存するとして

$$M^D = L(i, Y) \quad \frac{\partial L}{\partial i} < 0, \quad \frac{\partial L}{\partial Y} > 0$$

貨幣の供給

- 貨幣の本質は、銀行部門の債務である
- たとえば、現金通貨は、中央銀行が非中央銀行部門に対して発行する「借用証書」である（決済が完了することはない！）
- 貨幣の供給増は、銀行部門の債務の増加である
- 銀行部門の債務増加の大部分は、預金の増加である
- この預金（中央銀行預金 + 市中銀行預金）は、中央銀行が金融政策（公定歩合操作・公開市場操作・準備率操作）によって制御すると考えられる
- よって貨幣の供給 M^S は、中央銀行が裁量的にある水準 \bar{M} に等しく保つ

$$M^S = \bar{M}$$

財市場の均衡とIS曲線

- IS-LM理論における財市場の均衡条件をまとめておこう

$$Y^D = C(Y) + I(i) + G$$

$$Y^S = Y$$

$$Y^D = Y^S$$

- 45度線理論と違って、未知数は4つ (Y^D, Y^S, Y, i) であるのに対して方程式は3つのままである
- 上の式を、満たす国民所得水準 Y は、利子率 i の水準によって変わる
- Y と i の関数関係を示す、 $Y - i$ 平面に図示したものが、IS曲線である

貨幣市場の均衡とLM曲線

- IS-LM理論における貨幣市場の均衡条件をまとめておこう

$$M^D = L(i, Y)$$

$$M^S = \bar{M}$$

$$M^D = M^S$$

- 未知数は4つ (M^D, M^S, Y, i) であるのに対して方程式は3つである
- 上の式を、満たす国民所得水準 Y は、利子率 i の水準によって変わる
- Y と i の関数関係を示す、 $Y - i$ 平面に図示したものが、LM曲線である

演習

- 以下の均衡モデルの均衡値を，各パラメータの関数としてもとめ，比較静学を行いなさい

- 財市場

$$Y^D = C_0 + c_1 Y + I_0 - b_1 i + G, \quad (C_0, c_1, b_1 > 0)$$

$$Y^S = Y$$

$$Y^D = Y^S, \text{ 財市場の均衡条件}$$

$$M^D = m_1 Y + M_0 - m_2 i, \quad (m_1, M_0, m_2 > 0)$$

$$M^S = \bar{M}$$

$$M^D = M^S, \text{ 金融市場の均衡条件}$$

- 未知数は6つ (Y^D, Y^S, M^D, M^S, Y, i) である．なお，各変数の意味は授業で説明した通り